



# おたふくかぜはワクチンで 予防できる病気です！

平成 29 年 3 月 8 日  
富山県感染症情報センター

(直 0766-56-5431)

(直 0766-56-8142)

## 感染症発生動向速報

(平成 29 年第 9 週分・2 月 27 日～3 月 5 日)

### 《 インフォメーション 》

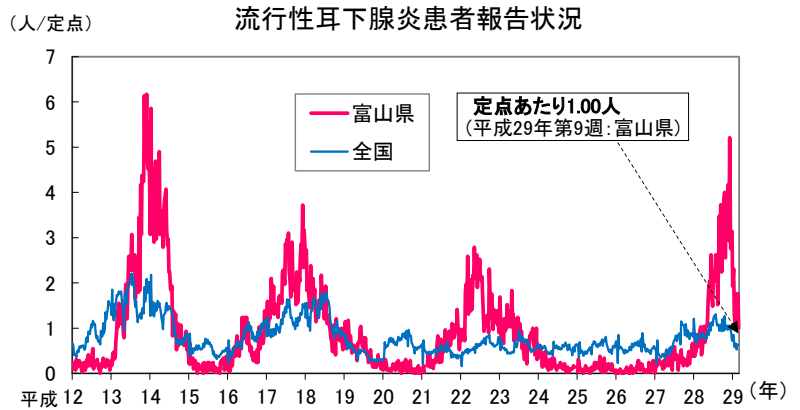
#### ●流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

今週、流行性耳下腺炎の報告数が定点医療機関あたり 1.00 人となり、先週 (1.76) から減少しました。

この疾患は、数年周期で流行を繰り返す傾向があり、最近の流行では平成 22 年から 23 年にかけて報告数が多くなりました。平成 28 年から現在まで、全国・富山県とも報告数が多い傾向が続いています。

流行性耳下腺炎は、ムンプスウイルスを原因とする感染症です。感染しても症状が現れない不顕性感染が約 3 割程度存在し、発症する場合は、潜伏期 2～3 週間後に、発熱と耳の下やあごの下に腫れと痛みが現れます。インフルエンザなどに比べて潜伏期間が長いのが特徴です。腫れなどの症状が出る 6 日前から他の人に感染させる可能性があります。通常は 1～2 週間で軽快しますが、無菌性髄膜炎や思春期以降の感染では睾丸炎や卵巣炎などの合併症を伴う場合があります。また、感染者の 1/400～1/1,000 の頻度で難聴を併発し、この場合は永続的な障害となります。「おたふくかぜ」は怖い病気なのです。

流行性耳下腺炎を効果的に予防するには、ワクチンの接種が有効な手段です。生後 1 歳から接種でき、ワクチンの効果は長期間持続し発病を阻止することが知られています。集団生活をはじめ保育園や幼稚園に入園する前に、**ワクチン接種を受けておくのも感染予防に効果的です**。ワクチンは任意での接種になりますので費用が必要ですが、県と市町村が共同発行する「**とやまっ子子育て応援券**」を使うことで費用が軽減されます。



### 《 全数報告の感染症 》

二類感染症 結核 5 件 (①20 歳代、男性 ②40 歳代、男性 ③④ともに 80 歳代、男性 ⑤90 歳代、男性)

### 《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位 6 疾患		定点医療機関あたりの数		
順位	疾病名	今週	先週	増減
1 位	インフルエンザ	14.79	17.88	↓
2 位	感染性胃腸炎	5.00	6.07	↓
3 位	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.48	1.45	↑
4 位	R S ウイルス感染症	1.00	0.66	↑
4 位	流行性耳下腺炎	1.00	1.76	↓
5 位	マイコプラズマ肺炎	0.60	0.40	↑
6 位	咽頭結膜熱	0.41	0.48	↓



この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます  
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

○感染症発生動向調査報告状況（平成29年第9週 平成29年2月27日～平成29年3月5日）

分類	疾患	今週報告分（第9週）						累積報告数					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
二類感染症	結核			1	1	3	5	6	2	7	5	15	35
四類感染症	A型肝炎							1					1
	デング熱											1	1
	レジオネラ症									3		2	5
五類感染症	アメーバ赤痢											1	1
	ウイルス性肝炎							1					1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										4		4
	後天性免疫不全症候群									1		1	2
	侵襲性肺炎球菌感染症							1		1		4	6
	梅毒									1			1
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ	119 17.00	76 15.20	142 10.92	99 14.14	274 17.13	710 14.79	1,543	1,083	2,058	1,195	2,483	8,362
	RSウイルス感染症	2 0.50	1 0.33	6 0.75	2 0.50	18 1.80	29 1.00	14	17	18	7	188	244
	咽頭結膜熱			4 0.50	4 1.00	4 0.40	12 0.41	3	6	50	22	41	122
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6 1.50	2 0.67	29 3.63	16 4.00	19 1.90	72 2.48	29	12	140	70	125	376
	感染性胃腸炎	39 9.75	15 5.00	18 2.25	17 4.25	56 5.60	145 5.00	408	237	297	226	743	1,911
	水痘					4 0.40	4 0.14		6	11	11	31	59
	手足口病			1 0.13			1 0.03			48	5		53
	伝染性紅斑					1 0.10	1 0.03				1	4	5
	突発性発しん			1 0.13	1 0.25	1 0.10	3 0.10	9	3	23	9	18	62
	百日咳									2			2
	ヘルパンギーナ				1 0.25		1 0.03			4	3		7
	流行性耳下腺炎	6 1.50	4 1.33	7 0.88		12 1.20	29 1.00	35	13	175	36	130	389
	急性出血性結膜炎			1 0.50			1 0.14			2			2
	流行性角結膜炎			2 1.00			2 0.29		1	57	1		59
	細菌性髄膜炎							1					1
	マイコプラズマ肺炎	2 2.00				1 1.00	3 0.60	7	2	4	5	5	23
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）							2		1	3	3	9
	インフルエンザによる入院患者（*）	10	1	3	7	5	26	46	3	28	65	79	221

## インフルエンザ定点における患者診断状況

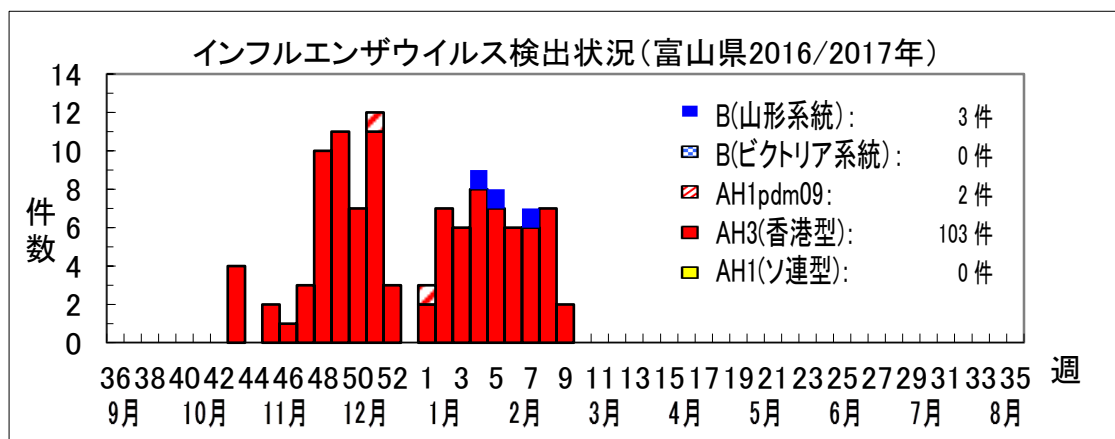
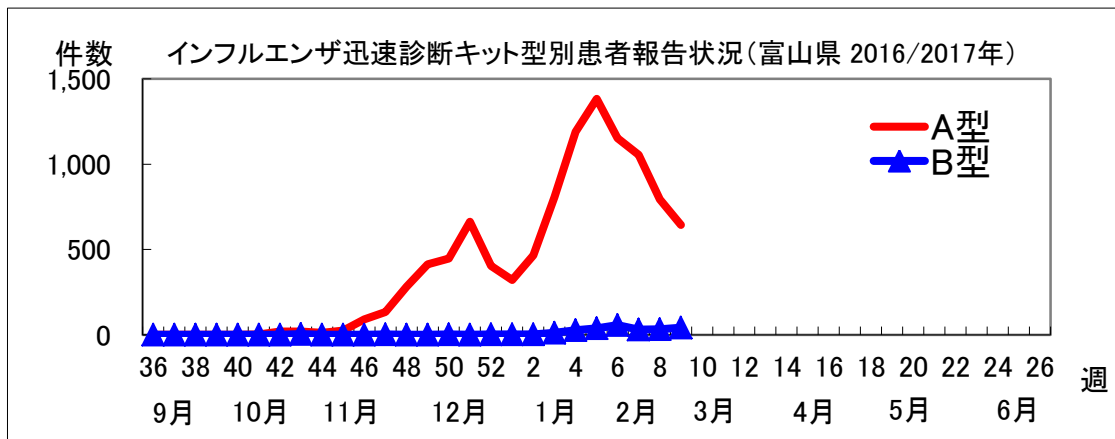
このデータは、インフルエンザ定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。現在、下の表によると、A型が90.7%となっています。

**第9週(2/27~3/5)：富山県 14.79人/定点** (単位:件)

厚生センター・保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他 <sup>※2</sup>	合計
		A型	B型		
新川	7 / 7	110	5	4	119
中部	5 / 5	63	1	12	76
高岡	13 / 13	133	6	3	142
砺波	7 / 7	96	2	1	99
富山市	16 / 16	242	27	5	274
富山県	48 / 48 <sup>※1</sup>	644	41	25	710
富山県累計(2016年36週~)		10,331	257	389	10,977

※1 報告定点数の例(48/48の場合):48の定点医療機関すべてで、インフルエンザと診断した報告があったことを示します。

※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。





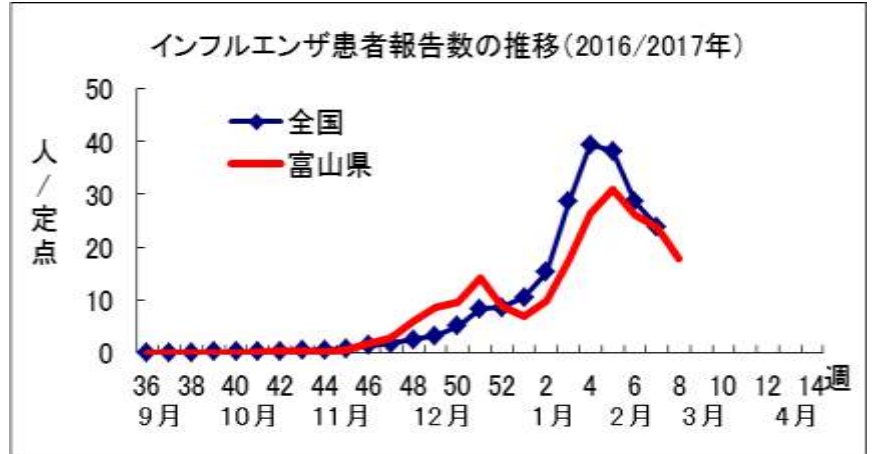
● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況

第9週 (2/27~3/6) : 富山県 14.79 人/定点

新川 HC (17.00)、中部 HC (15.20)、高岡 HC (10.92)、砺波 HC (14.14)、富山市 HC (17.13)

第5週に県内は警報レベルの目安である定点医療機関あたり 30 人を超えました。

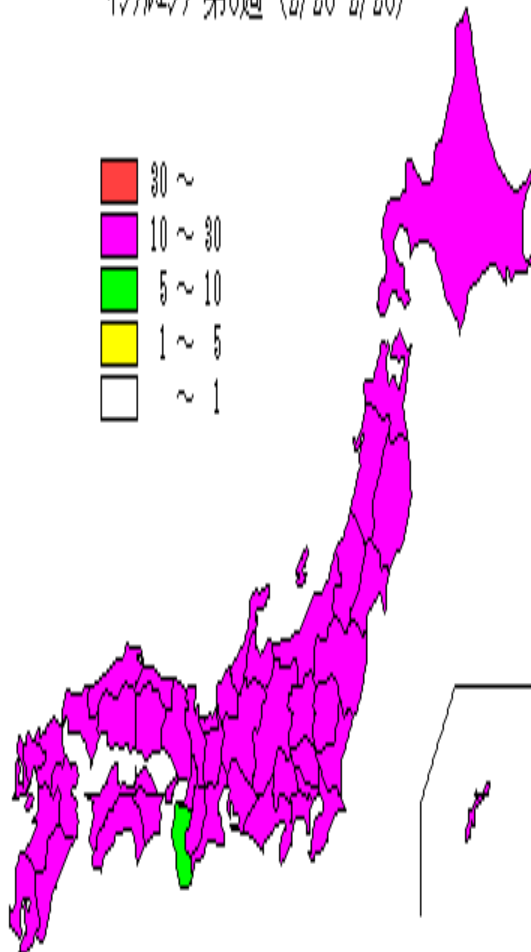
県内のインフルエンザの流行は縮小傾向にあります。また報告数の多い状態が続いています。



● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第8週 (2/20~2/26)

全国の患者報告数は、定点あたり 16.87 人となり、前週の定点あたり 23.92 人より減少しました。全 47 都道府県で前週より報告数が減少しています。

インフルエンザ第8週 (2/20-2/26)



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	12.15	滋賀県	17.32
青森県	16.57	京都府	14.84
岩手県	15.62	大阪府	11.87
宮城県	19.17	兵庫県	12.45
秋田県	13.44	奈良県	10.89
山形県	12.29	和歌山県	9.94
福島県	19.38	鳥取県	13.24
茨城県	16.94	島根県	14.34
栃木県	18.50	岡山県	16.39
群馬県	14.64	広島県	13.10
埼玉県	20.48	山口県	19.34
千葉県	17.94	徳島県	11.32
東京都	15.65	香川県	11.38
神奈川県	14.96	愛媛県	16.80
新潟県	20.34	高知県	24.02
富山県	17.88	福岡県	21.31
石川県	25.04	佐賀県	23.21
福井県	26.34	長崎県	25.13
山梨県	20.32	熊本県	19.53
長野県	26.11	大分県	19.86
岐阜県	15.55	宮崎県	21.92
静岡県	16.24	鹿児島県	21.18
愛知県	18.57	沖縄県	24.28
三重県	15.11	全国	16.87